
幻獣観察物語～吸血鬼～

Douke

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻獣観察物語〜吸血鬼〜

【Nコード】

N8952Y

【作者名】

Douke

【あらすじ】

一人、森の中を歩く青年がいた。森の中には湖があり、小さな少女の姿があった……。

この作品は、『吸血鬼の噂話』を長編にリメイクした作品です。

パート1

一人、森の中を歩く青年がいた。

年齢は若く、おおよそ二十代前半であろう。けれどその類には、青年には似合わない傷跡が深く刻まれていた。

格好はこれまた似合わないコートを着ており、頭にはベレー帽を被っていた。

そしてその手には、旅行用のトランクがあった。

青年の歩調はどこか焦っているかのように早足だった。

まだ日は高く、近くに獣のうなり声は聞こえないので、追われているというわけではない。

ただただ、森の中を早足で歩いていた。

その顔には、期待と興奮。

しばらく歩いていると、綺麗な湖があり、その近くに一人の少女が湖の水を手ですくって飲んでいた。

しかしその格好は少しおかしく、ネグリジエを着ていて、その上に黒いマントらしきものを身にまとわせていた。

「見つけた……！」

青年は少女の姿を見た途端、少女に向かって走り出した。

足音に気付いて、少女は視線を湖から青年へとゆっくり移した。静かに立ち上がると、警戒しながら青年に尋ねる。

「……お主、何者じゃ？」

その少女に似合わない口調や雰囲気は、まるでどこか高貴の貴族のようだった。

少女の問いに答えず、青年は少女の元まで走ると、その場で荒れた息を整える。

ゆっくりと深呼吸をし、少女に向き合った。

「僕はマルク・ヴァンプール。ただの旅人さ」

「……なるほど。旅人であったか。しかしこの先にはただ森が広が

っており、森を抜ければただ山があるのみじゃ。戻って別の所を旅するがよいぞ」

「いや、僕の旅にはきちんとした目的があつてね。今ここに居る君に聞きたい事があるんだ」

「愚かな人間に答える口は持たぬが、特別に答えてやろう」

愚かな人間と聞いた瞬間、青年は確信した。

けれどそれを確認するかのように、青年は少女に尋ねた。

「君は……魔女かい？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8952y/>

幻獣観察物語～吸血鬼～

2011年11月26日22時51分発行